真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7 年度

事務事業評価マネージメントシート

作成日　令和8年3月12日

事務事業名	いがしらリゾート農業拠点施設（観光いちご園等）整備事業		担当課・係	産業部　農政課　農業振興係	
政策名	No 3 「にぎわいづくり」～まちの活力アップ！～			【重点】総合計画重点事業	
施策名	No 1 農業の振興		事業期間	毎年度実施　（開始年度令和2年度～）	
関連個別計画			関連する SDGs･DX		DX
法令根拠					
事業内容	いちごを核とした交流施設及び観光いちご園整備				
求められる成果	いがしらリゾート活性化により、観光客数（井頭エリア）の増加が見込め、いちご王国とちぎの首都としてのイメージを一層高めるとともに、本市へのいちご新規就農者増加につなげる。 井頭観光いちご園のハウス増設、観光いちご園担い手の増加、アグリゾーン施設（あぐ里っ娘、観光いちご園、いがしらふぁーむ）の来場者増加。				
前年度記載「今後の方向性と課題への対応・改善策」	・近年の猛暑等による利用者の外出控えなど、対外的な来場者数の減少に対応するため、指定管理者によるPRの強化や自主事業の実施により、あぐ里っ娘、観光いちご園の来場者を増やす。 ・いがしらふぁーむにおいて、新たなイベントの実施やグリーンツーリズムとの連携、夏の暑さ対策（開園時間の繰り上げ等）を引き続き実施し、利用者を増やす。				
事業概要・施策実施状況	井頭リゾートエリアを観光交流拠点と位置付け、多様な観光資源を有効活用し、関係施設が連携を図りながら、将来にわたり多くの人々に選ばれる魅力あふれるエリアとなるよう、プロジェクト推進課で各種事業を進めている。 この中で、あぐ里っ娘や観光いちご園周辺をアグリゾーンとして、令和2年度に策定した整備基本計画に基づき、観光いちご園等農業拠点整備を行うもの。 〇主な導入機能（計画抜粋）・観光いちご園の圃場拡大・あぐ里っ娘の機能拡充 ・プロモーションエリア整備・いちごシーズン以外の体験コンテンツ（収穫体験圃場等）整備 ※導入時期等は、井頭周辺エリア（南側エリア）を所管するプロジェクト推進課と連携を図りながら検討。 〇経過　令和4年度　観光いちご園研修制度の創設及び募集、駐車場及び収穫体験圃場用地の確保 令和5年度　観光いちご園研修生確保に向けた就農相談会への参加、収穫体験農場の整備、開園（約1,600㎡）、砂利駐車場の整備（約3,500㎡）、あぐ里っ娘拡張工事用地の確保（約540㎡）、あぐ里っ娘拡張工事設計業務 令和6年度　観光いちご園研修生確保に向けた就農相談会への参加、収穫体験圃場の拡充（約1,400平米）、あぐ里っ娘敷地拡張工事、収穫体験圃場用物置購入及び水道設置工事、あぐ里っ娘防犯カメラ修繕、あぐ里っ娘トイレ改修工事設計業務				

1.現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

ア）手段（主な活動・Do）

令和7年度実績
・収穫体験圃場（いがしらふぁーむ）管理運営等
・あぐ里っ娘売り場床修繕工事
・あぐ里っ娘店舗看板修繕
・先進地視察（千葉県農園リゾートTHE FARM）
・いがしらふぁーむ受付業務の将来的な委託の検討
・いがしらリゾート各施設との回遊性向上に向けた、アグリゾーン整備計画の検討
・アグリゾーン整備や運営体制について民間事業者からのサウンディング調査を実施
・あぐ里っ娘厨房機器更新

イ）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）の推移

	名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11
①	井頭周辺農業拠点施設関連予算	千円	10219				

ウ）対象（誰を、何を対象にしていますか）

※人・自然資源等
あぐ里っ娘（イートインスペース含む）、井頭観光いちご園、収穫体験圃場（いがしらふぁーむ）観光客数（井頭エリア）
※井頭公園、一万人プール、井頭温泉含む

エ）対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移

	名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11
①	井頭観光いちご園ハウス棟数	棟	54				
②	あぐ里っ娘・観光いちご園売上	千円	222333				
③	収穫体験圃場開園面積	㎡	4000				

オ）意図(この事業によって、対象を成果に導くための方向性どう変えたいですか)

井頭観光いちご園のハウスの増設、あぐ里っ娘（観光いちご園）を含めた周辺施設の賑わい創出（利用者の増加）

カ）成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移

	名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
①	観光客数（井頭エリア）	万人	122					130
②	観光いちご園入場者数	人	14288					18000
③	あぐ里っ娘（直売所）利用者数	人	117971					140000
④	イートインスペース利用人数（推計）	人	5627					8000
⑤	収穫体験圃場利用者数	人	611					1000

（2）総事業費(決算)の推移（単位：千円）

			R7	R8	R9	R10	R11
事業費 財源内訳	特定財源	国・県支出金	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源		10,219	0	0	0	0
事業費合計			10,219	0	0	0	0
コスト対前年比				0.0	0.0	0.0	0.0

2.1次評価の部　※原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1)目的妥当性評価

①政策体系との整合性：事業の目的（対象・意図）は市の政策体系（結果）に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当ですか？

【評価理由】
あぐ里っ娘及び観光いちご園を含めた井頭周辺エリアは、県内外から多くの来場者が訪れているが、井頭公園、チャットパレスなどの周辺施設と更なる連携を図ることにより、一層魅力ある観光交流拠点となるポテンシャルを秘めている。
そのような中、いがしらリゾート内における農業エリアであるアグリゾーンの整備を通じて、核となるいちごのほか、農産物を通じた農村と都市との交流促進を図り、「日本一のいちごのまち」及び「いちご王国栃木の首都もおか」としてブランド力向上に資することに繋がることから、市の施策に結び付いている。

■ 向上の余地はある。　□ 向上の余地はない。

②公共関与の妥当性：なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？　民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？

【評価理由】
アグリゾーンの整備が完了し、新たな事業者のもとで自走できるようになるまでは、施設の整備費用、指定管理料の支払い等による公共関与は必要である。

■ 市が行わなければならない。　□ 市以外でも可能である。

③対象と意図の妥当性：事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？

【評価理由】
アグリゾーンの整備を通じて、核となるいちごのほか、農産物を通じた農村と都市との交流促進を図り、「日本一のいちごのまちもおか」及び「いちご王国栃木の首都もおか」としてブランド力向上に資することに繋がることから、適切である。

■ 対象・意図を見直す必要はない。　□ 対象を見直す。

(2)有効性評価

④成果の向上余地：事務事業の成果は出ていますか？事務事業のやり方を見直した結果、向上余地があるか判断してください。

【評価理由】
今後一層、いがしらリゾートが魅力あるエリアとなるため、アグリゾーン整備を通じたいちごシーズン以外の集客コンテンツとして、収穫体験圃場を拡充することにより集客を図る余地がある。また、リゾート各施設と一層連携を図り運営方法等について検討の余地もあることから、成果向上の余地がある。
また、あぐ里っ娘の利用者数が減少しており、今後のアグリゾーン整備に合わせた利用者増に向け、向上の余地がある。
さらには、井頭観光いちご園の利用者数が、コロナ前の状況に比べ戻っていない状況もあり、同じく今後のアグリゾーン整備に合わせた利用者増に向け、向上の余地がある。

□ 向上の余地はある。　■ 向上の余地はない。

⑤類似事業との統廃合・連携の可能性：類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？　ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？

■類似事業と統合・連携ができる　【類似事業名】
□類似事業と統合・連携ができない　【評価理由】　整備に当たっては、井頭周辺活性化事業を所管するプロジェクト推進課との連携が必要。
□類似事業はない

(3)効率性評価

⑥事業費の削減余地：成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできますか？実施方法の適正化によりコスト削減をできますか？

【評価理由】
整備内容や整備手法の検討により、随時最小限の予算により事業を実施しており、削減余地がない。

■ 削減余地はない。　□ 削減余地がある。

⑷事務事業の課題(Check）事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、予算上の課題点、費用対効果向上のための課題
令和７年度に策定したいがしらリゾート戦略的事業構想書において、アグリゾーンの整備費用として最低でも概算で5億円を見込んでいるため、費用対効果を考慮した整備内容の詳細な検討が必要であるとともに、地域未来交付金など国の交付金の有効活用により、市負担額の抑制を図る必要がある。

⑸今後の方向性と課題への対応・改善策（Action➡Plan）
■現状維持　□やり方改善　□目的拡充　□目的絞り込み　□統合　□廃止

①ただちに取り組むべきこと
アグリゾーン整備方針や将来的な管理運営に当たっての、民間事業者からの参入の可能性を含めたヒアリングの実施。
現指定管理者の令和9年度末指定期間満了に伴う、次期指定管理者選定方法等の決定。

②長期的な計画で検討すること
戦略的事業構想書に基づく、アグリゾーン整備内容の実現性や方針の決定。

（６）改革・改善による期待効果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		■	
	維持			
	低下			

3.2次評価

（１）2次評価者として判断した今後の事業の方向性

□廃止　□休止　□目的絞り込み
□目的拡充　■事業やり方改善
□予算削減　□予算増大
□現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

（２）その他2次評価会議で指摘された事項
アグリゾーンの整備に向けて、効果的なコンテンツが何であるか構想内容を精査してほしい。

（３）改革・改善による期待効果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		■	
	維持			
	低下			